

R7年8月放送分
「施設整備・地元受注・採用等について」
(日本の防衛Q & A)
(自衛隊百科)

R7.7.25 収録

【パーソナリティー】

本日は、「施設整備・地元受注・採用等について」をテーマに、東北防衛局から職員2名の方にお越しいただきました。よろしくお願いいたします。

【職員2名】

よろしくお願いいたします。

【パーソナリティー】

はじめに自己紹介をお願いします。

【齋藤】

はい、調達部調達計画課の齋藤です。採用20年以上の古参となりました。魚介類、ラーメン、行きたい旅行先で上位にランクインされる北海道で生まれ育ちました。

当課では、自衛隊や米軍の施設整備に関する調査、設計、工事などの発注、監督、進捗管理などを担当する建築課、土木課、設備課といった技術各課と発注予定の作成や予算調整に関する手続きなどを実施しています。どうぞよろしくお願いいたします。

【村上】

同じく調達計画課で計画係の村上です。採用4年目でこの4月に土木課から異動となりました。出身地は、美しい溪谷の「^{げんびけい}巖美溪」や「^{げい}狹鼻溪」などがある岩手県最南端の都市一関市です。私の業務は、工事に必要な予算の調整や執行に関する内容となっています。よろしくお願いいたします。

【パーソナリティー】

こちらこそ、よろしくお願ひします。それでは、今回のテーマ「施設整備・地元受注・採用等について」お話を願ひします。

【齋藤】

はい。東北防衛局調達部は東北防衛局の重要な仕事の一つとして、自衛隊や米軍基地の施設整備を担っています。

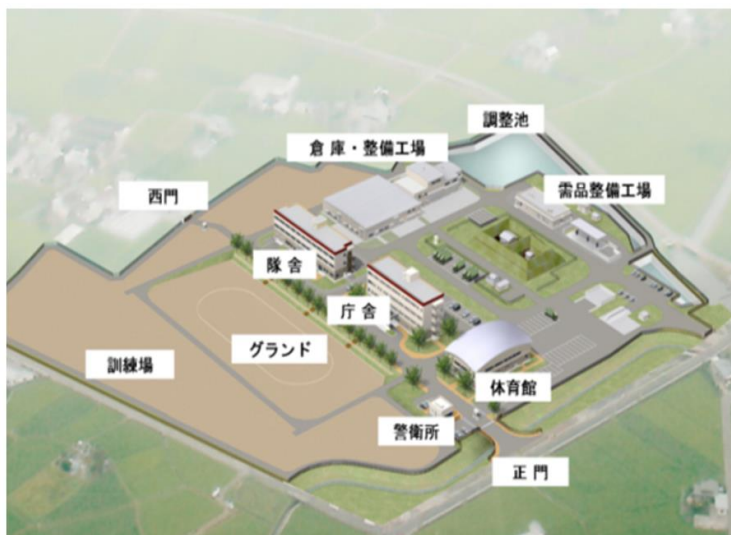
今回紹介する「施設整備」という言葉を聞いてどのようなことをイメージされますか。

【パーソナリティー】

そうですね、防衛局の施設整備と聞くと、要塞のような建物を新築するようなイメージですね。

【齋藤】

建物を新築することも施設整備です。あまりなじみのない言葉かもしれないので、まず、一般的な駐屯地や基地の施設整備についてお話ししますと、自衛官が生活する隊舎、訓練を行う演習場、訓練場、そのほか、飛行場、船舶の係留施設、装備品を格納する倉庫、車両を整備する工場、さらには、食堂や医務室など整備することを言います。



【パーソナリティー】

ものすごく多岐にわたるのですね！

【齋藤】

はい、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊では、それぞれ多くの装備品があることや、自衛隊の自己完結組織であることから、装備品の保管、燃料補給や自衛官の食事、就寝などを行うため多種多様な施設があります。その施設は、隊員が日々の任務を円滑に遂行し、いざという時に国民の皆さんを守るために活動する基盤となります。

【パーソナリティー】

なるほど、自衛隊の活躍の裏にはこうした「施設整備」が欠かせないわけですね。

【齋藤】

はい、自衛隊の発足から約70年が経過し、施設の老朽化が顕著となってきました。そこで、劣化状況に応じた施設計画に基づき整備を行っています。

【パーソナリティー】

では、施設を整備するには、どのようなことを行うのでしょうか。

【齋藤】

はい、簡単に言いますと調査、設計、工事の発注といったプロセスを経ることになります。工事期間中は工事の監督、進捗管理、予算調整を行い、完成検査を経て部隊へ引渡しとなります。部隊への引渡し後はフォローアップなどを含めた一連の業務も実施しています。

私たちは、自衛隊の一員として、日々、施設整備を通じて日本の安全と安心を技術力で支えていると考えています。

【パーソナリティー】

まさに、自衛隊の活躍を陰で支える縁の下の力持ちですね。

では、次にテーマ「地元受注」についてお話しいただけますか。

【齋藤】

はい、昨年度、東北防衛局調達部では64件の工事を発注し、その

うち35件を各県内の地元企業が落札しました。内訳は、青森県21件、宮城県6件、秋田県1件、山形県3件、福島県4件です。今年度も、約60件の工事を発注する計画です。工事発注では、地元企業が参加しやすくなっていますので、ご関心のある建設業の方々は、入札に是非ご参加下さい。

【パーソナリティー】

「地元企業が参加しやすい」とは、どのようなことですか。

【齋藤】

「地元企業が参加しやすい」とは、工事単位を分離・分割すること、施工実績・経験に関する要件緩和、十分な工期の設定、適切な技術者専任期間の設定、単価変動に伴うスライド条項の契約書記載、週休二日の実施、各建設業協会会員への説明会など、地元企業の受注機会の確保に資する様々な制度・施策を講じています。

予算も増えてますので、地元企業含め数多くの企業に入札にご参加していただきたいと思っています。

【パーソナリティー】

企業の皆様には、是非、防衛局が発注する工事の入札に参加していただきたいですね。

では、次のテーマ「採用等について」伺っていきます。若手職員として活躍されている村上さんは採用4年目とのことですが、簡単に経歴をお聞かせいただけますか。

【村上】

はい、私は高校で土木工学を学び、東北防衛局調達部土木課に配属され、3年間、岩手駐屯地や松島基地の担当として、発注者の立場で工事監督官をしてきました。

今年度からは、調達計画課で予算に関わる仕事をしております。

【パーソナリティー】

採用されて早々工事監督官をしてきたのですね。

【村上】

小学生の頃から自衛隊に興味・関心を持ち、岩手駐屯地や仙台駐屯地での記念行事や広報イベントに参加していました。まさか工事監督官として、同じ場所に立つことになるとは思ってもいなかったです。

【パーソナリティー】

東北防衛局調達部の仕事に興味を持つリスナーの方にお伝えしたいことはありますか。

【村上】

今日まで業務を通じて思うのは、工事監督官として施設整備に関わった施設を使用する隊員から、使い勝手や感謝の気持ちを聴く機会があるとやりがいを感じます。

それに、自衛隊や装備品に関心のある自分のような人にとっては、趣味を仕事にできるので、天職だと感じています。

【パーソナリティー】

なかなか興味深いお話でした。採用について、齋藤さんからお知らせすることはありますか。

【齋藤】

はい、東北防衛局調達部では、国家公務員採用試験や選考を経て採用された、約60名の職員で施設整備を実施しています。近年は採用者数より定年等退職者数の方が多くなっていますので、是非リスナーの皆様は周りの方々に東北防衛局調達部のことを就職先として宣伝していただきたいと思います。

【パーソナリティー】

試験のほかに選考を経て採用とのことですが、選考とはどのような採用でしょうか。

【齋藤】

選考の例として、民間企業や役所などで建設分野における実務、経験を積んだ方を対象として、小論文、面接などを経て採用しています。この選考は随時受け付けています。詳しくは防衛省ホームページをご覧ください。

【パーソナリティー】

本日は、施設整備・地元受注・採用等について、齋藤さんと村上さんにお話をお聞きしました。ありがとうございました。

【職員 2 名】

ありがとうございました。

【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞きの皆さまからご意見・ご感想を募集しております。お聞きのコミュニティ放送局までご連絡ください。